

視覚障がい者ランナーと伴走者の現状分析（その6）

—大会における伴走位置実態およびコース取りなどの提言—

○鈴木邦雄

キーワード：視覚障害 視覚障がい 盲人 マラソン 伴走 コース

I・目的

伴走を必要とする視覚障がい者ランナーに対して伴走者がその左右のどちらで伴走するかという実態とその理由の調査を行ってきたが、実際の大会における現状はどうかと、安全のために視覚障がい者ランナーのコース取りなどの現状を調査・報告し、視覚障がい者ランナー・伴走者・大会運営者に提言するものである。

II・方法

1) 対象者

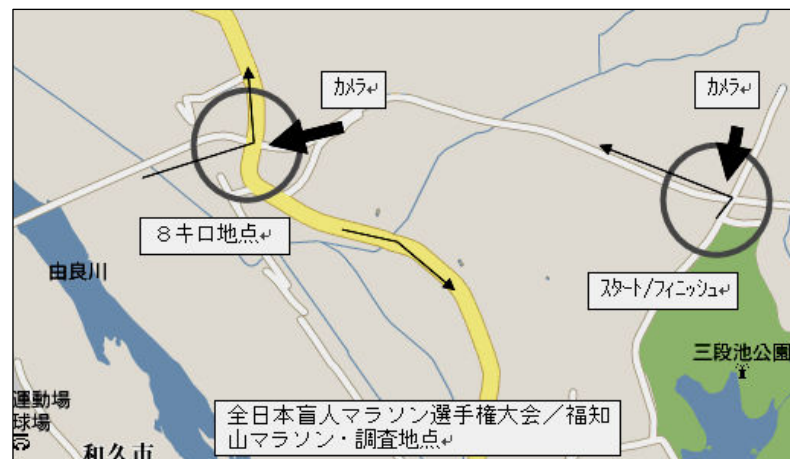
第10回・全日本盲人マラソン選手権大会（第19回・福知山マラソン大会）に参加した視覚障がい者ランナーと伴走者を対象にしたが、実際の調査対象者は伴走を必要とするB1・B2（注1）の選手のうち撮影ができた28名が対象となった。

表Ⅱ-1 大会エントリー・出場者・調査対象の人数

区分	エントリー数	出場者数	調査対象者数
男子B1	14	12	11
男子B2	10	10	7
男子B3	7	5	—
小計	31	27	18
女子B1	6	6	6
女子B2	6	6	4
女子B3	2	2	—
小計	14	14	10
合計	45	41	28

2) 調査方法

コース上にビデオカメラ、スチールカメラを設置して参加ランナーを撮影して調査した。



図Ⅱ-1 調査地点

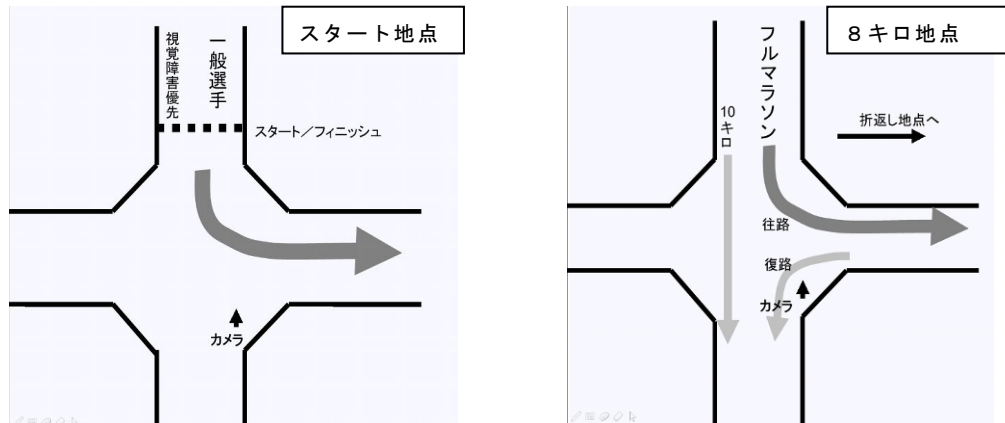


図 II-2 調査地点の詳細 (左=スタート地点、右=8キロ地点)

3) 具体的な調査方法

① 視覚障がい者ランナーと伴走者の左右の位置

スタート地点、8キロ地点のどちらかで調査出来た視覚障がい者ランナーと伴走者の左右の位置関係を調査した。

(両地点重複調査者あり)



図 II-3 伴走位置の例 (左=伴走者が右、右=伴走者が左)

② スタート地点、8キロ地点において視覚障害者ランナーと伴走者のコース取りの位置 (内側、中央、外側) をそれぞれ調査した。



図 II-4 コース取りの例 (スタート地点) (左=外側、中=中央、右=内側)



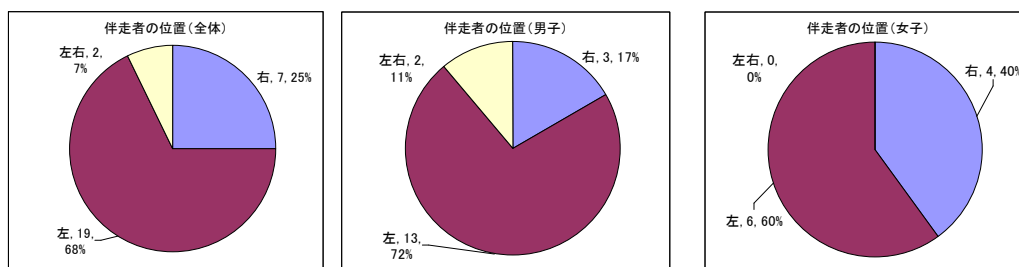
図 II-5 コース取りの例 (8キロ地点) (左=外側、中=中央、右=内側)

III・結 果

スタート地点で 22 名、8キロ地点で 25 名の調査が出来、人数にして合計 28 名の選手を調査する事が出来た。

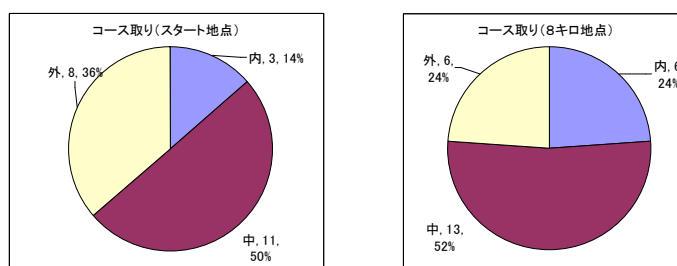
1) 視覚障がい者ランナーと伴走者の左右の位置

男女全体と、男女別の集計を行った。



図Ⅲ-1-1 伴走者の位置(全体) 図Ⅲ-1-2 伴走者の位置(男子) 図Ⅲ-1-3 伴走者の位置(女子)

- 2) スタート地点、8 キロ地点の視覚障害者ランナーと伴走者のコース取りをそれぞれ内側・中央・外側の区別で集計した。



図Ⅲ-2-1 コース取り(スタート地点) 図Ⅲ-2-2 コース取り(8キロ地点)

Ⅳ・考 察

- 1) 視覚障がい者ランナーと伴走者の左右の位置

図Ⅲ-1-1 にまとめたように、今回の大会参加者のうち伴走者を必要とするクラス(B1・B2)の視覚障がい者ランナーの左に伴走者が位置する場合が68%であり、前回(2004年・第1回日本スポーツボランティア学会大会)(注2)の発表内容を裏付ける結果となった。

今回とくに興味のある現象は8キロ地点ですでに伴走者の位置を左右交代している視覚障がい者ランナーがいることである(同一の伴走者であるのに)

- 2) コース取り

① スタート地点

大会本部で設定した「視覚障がい者ランナー優先レーン」がスタート地点の右端に設けられているのと、スタート直後に左直角に曲がるため、意識せずに右側の外側コースを走るランナーが多く見受けられ、8キロ地点との差が出ている。

② 8キロ地点

すでに8キロを走り選手の集団も広がりを見せており、ある程度自由にコースを選ぶ事ができる状況にある。

そのためタイム的に有利な内側のコースを取る視覚障がい者ランナーがスタート地点に比べて約2倍に増えており、タイム的に不利な外側のコースを取る視覚障がい者ランナーはやや減少している。

中央のコースを選ぶ視覚障がい者ランナーはスタート地点と比べても殆ど差が無い。

V・結論

一般の晴眼者ランナーに交じって視覚障がい者ランナーと伴走者が安全を優先しながらもタイムを狙って走る事は危険との共存で、一步間違えると接触・転倒などの事故につながりかねない。

8キロ地点で選手が広がりを見せている地点でも外側のコースを選んでいる人が24%いると言う事は安全に対して十分な配慮を見せていると言う事であろう。

実際に同地点で中央部を走る視覚障がい者ランナーに外側から内側のコースに入り込んでくる晴眼者ランナーとの接触事故もみられている(図V-1 参照)

ランナーの心理としてタイム的に有利な内側のコースを選びたくするのは当然で、伴走者はその点を十分に考慮しコースを選ぶ必要があると考える。



図 V-1 接触事故の例(8k 地点)

VI・提言

晴眼者ランナーと視覚障がい者ランナーが混在する大会などで視覚障がい者優先レーンが設けられる事は非常にありがたいことであるが、スタート直後にカーブがある場合はどちら側に視覚障がい者優先レーンを設けるかが問題になる。

左側に伴走者が位置する割合が約70%と言う事を前提にすると。

- 1) スタート直後に左に曲がるコースの場合(図VI-1の例)は内側にコース取りしてくる一般ランナーと視覚障がい者ランナーの接触事故が懸念されるため右端に優先レーンを設けたほうが事故を低減する事が出来ると言えるであろう(福知山マラソンなど)
- 2) スタート直後に右に曲がるコースの場合(図VI-2の例)では一般ランナーは内側に集中してくる事から視覚障がい者ランナーが左にいる伴走者と共に右側に押しやられて右側の縁石などに接触する事故が懸念されるため左側にコースを取り右側にいる晴眼者ランナーと十分な感覚を取りながら右に曲がる事が安全と思われる(東京マラソン・かすみがうらマラソンなど)

この調査が視覚障がい者ランナーの走る環境向上に貢献できることを願っている。

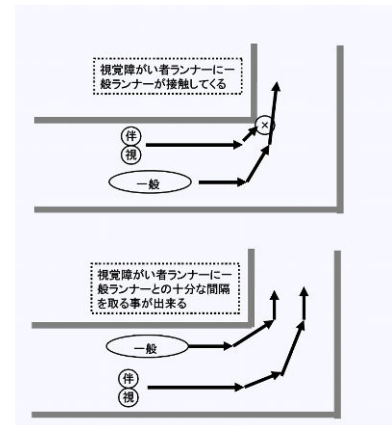


図 VI-1 スタート直後に左折の場合

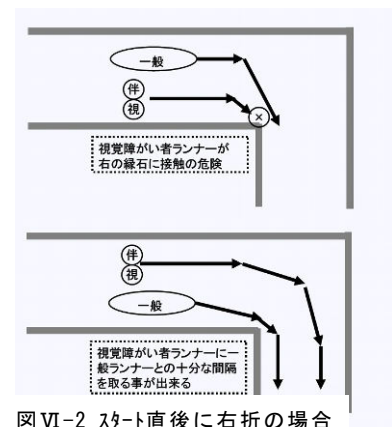


図 VI-2 スタート直後に右折の場合

注1: B1・B2・B3とは視覚障がい者競技のクラス分けで「B1」は伴走者と共に走る事が義務、「B2」は伴走者の有無は申告による、「B3」は伴走者と共に走る事は禁止されている。

注2: 視覚障がい者ランナーと伴走者の現状分析-左右の伴走位置実態およびその理由の調査-
日本スポーツボランティア学会大会2004年発表